

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第7部門第3区分  
 【発行日】平成26年4月10日(2014.4.10)

【公表番号】特表2014-502096(P2014-502096A)  
 【公表日】平成26年1月23日(2014.1.23)  
 【年通号数】公開・登録公報2014-004  
 【出願番号】特願2013-538914(P2013-538914)  
 【国際特許分類】

H 0 4 W 48/18 (2009.01)

H 0 4 W 88/06 (2009.01)

【 F I 】

H 0 4 W 48/18

H 0 4 W 88/06

【手続補正書】

【提出日】平成26年2月19日(2014.2.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0126

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0126】

PS中断情報にさらに基づいて、RAUプロシーヂャを実行すべきかどうかを判断することを、以下の例によって示す。第1のネットワークは、たとえば、LTEネットワークであり得、第3のネットワークは、たとえば、GERANネットワークであり得る。PS中断情報は、たとえば、PS中断が実行されるという指示を含み得る。GERANネットワークは、たとえば、DTM対応GERANネットワークであり得る。ユーザ端末のISRステータスは「オン」ステータスであり得、RAUプロシーヂャを実行すべきかどうかを判断することは、RAUプロシーヂャを実行すべきであると判断することを含み得る。すなわち、PS中断情報と、ISRステータスと、ネットワークRATとが説明されたようなものであると判断することに応答して、ユーザ端末はRAUを開始し得る。プロセスは、RAUプロシーヂャを実行することと並行してCS呼設定プロシーヂャを実行することをさらに含み得る。RAUプロシーヂャを実行することと並行してCS呼設定プロシーヂャを実行することは、ISRオンステータスに部分的に基づいて行われ得る。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0128

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0128】

PS中断情報にさらに基づいて、RAUプロシーヂャを実行すべきかどうかを判断することを、以下の第2の代替例によってさらに示す。GERANネットワークは、たとえば、非DTM GERANネットワークであり得、ユーザ端末のISRステータスは「オフ」ステータスであり得る。PS中断情報は、たとえば、PS中断が実行されるという指示を含み得る。RAUプロシーヂャを実行すべきかどうかを判断することは、RAUプロシーヂャを実行すべきであると判断することを含み得る。すなわち、PS中断情報と、ISRステータスと、ネットワークRATとが説明されたようなものであると判断することに応答して、ユーザ端末はRAUを開始し得る。プロセスは、CS呼設定プロシーヂャを実行するより前にRAUプロシーヂャを実行することをさらに含み得る。CS呼設定プロシ

ージャを実行するより前に R A U プロシージャを実行することは、 I S R 「オフ」ステータスに部分的に基づいて行われ得る。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0169

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0169】

UE 1650 では、送信された変調信号は  $N_r$  個のアンテナ  $1652_1 \sim 1652_{N_r}$  によって受信され、各アンテナ  $1652$  から受信された信号は、それぞれの受信機 (RCVR)  $1654_1 \sim 1654_{N_r}$  に与えられる。各受信機  $1654$  は、それぞれの受信信号を調整 (たとえば、フィルタ処理、増幅、およびダウンコンバート) し、調整された信号をデジタル化して、サンプルを与え、さらにそれらのサンプルを処理して、対応する「受信」シンボルストリームを与える。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0170

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0170】

次いで、RX データプロセッサ 1660 は、特定の受信機処理技法に基づいて  $N_r$  個の受信機  $1654_1 \sim 1654_{N_r}$  から  $N_r$  個の受信シンボルストリームを受信し、処理して、 $N_s$  個の「検出」シンボルストリームを与えて、 $N_s$  個の送信シンボルストリームの推定値を与える。次いで、RX データプロセッサ 1660 は、各検出シンボルストリームを復調し、デインターリーブし、復号して、データストリームのトラフィックデータを復元する。RX データプロセッサ 1660 による処理は、一般に、基地局 1610 において TX MIMO プロセッサ 1620 および TX データプロセッサ 1614 によって実行される処理を補足するものである。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0184

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0184】

最終的に、BSS は、GPRS 中断の条件が消滅したと判断し得る。BSS が、GPRS サービスを再開するように SGSN に要求することが可能である場合、2018 において、BSS は再開 (TLLI、RAI) メッセージを SGSN に送り得る。2020 において、SGSN は、再開 Ack を戻すことによって、再開の成功した結果を確認応答し得る。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0192

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0192】

2124 において、CS 接続が終了した後、BSS は新しい SGSN に再開 (TLLI、RAI) メッセージを送り得るが、古い SGSN に対する再開は必要とされないので、2126 において、新しい SGSN は再開 Nack メッセージを送ることによって再開を確認応答し得る。MS は、この場合、CS 接続が終了し、MS コンテキストが古い SGSN から新しい SGSN に移動され得るときに GPRS サービスの更新のための RA 更新を

実行すべきであるので、古いSGSNに対する再開は不要であり得る。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0203

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0203】

2326において、3G SGSNは中断応答メッセージを2G SGSN 2306に戻す。2328において、次いで、2G SGSN 2306は中断AckメッセージをBSSに戻す。2330において、CS接続が終了した後、BSSは2G SGSNに再開(TLLI、RAI)メッセージを送り得るが、3G SGSNに対する再開は必要とされないので、2G SGSNは、2332において、再開Ackメッセージを送ることによって再開に確認応答する。MSは、CS接続が終了し、MSコンテキストが3G SGSNから2G SGSNに移動され得るときにGPRSサービスの更新のためのRA更新を実行し得るので、この場合、再開は不要である。

【手続補正8】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図11

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1 1】

図 11

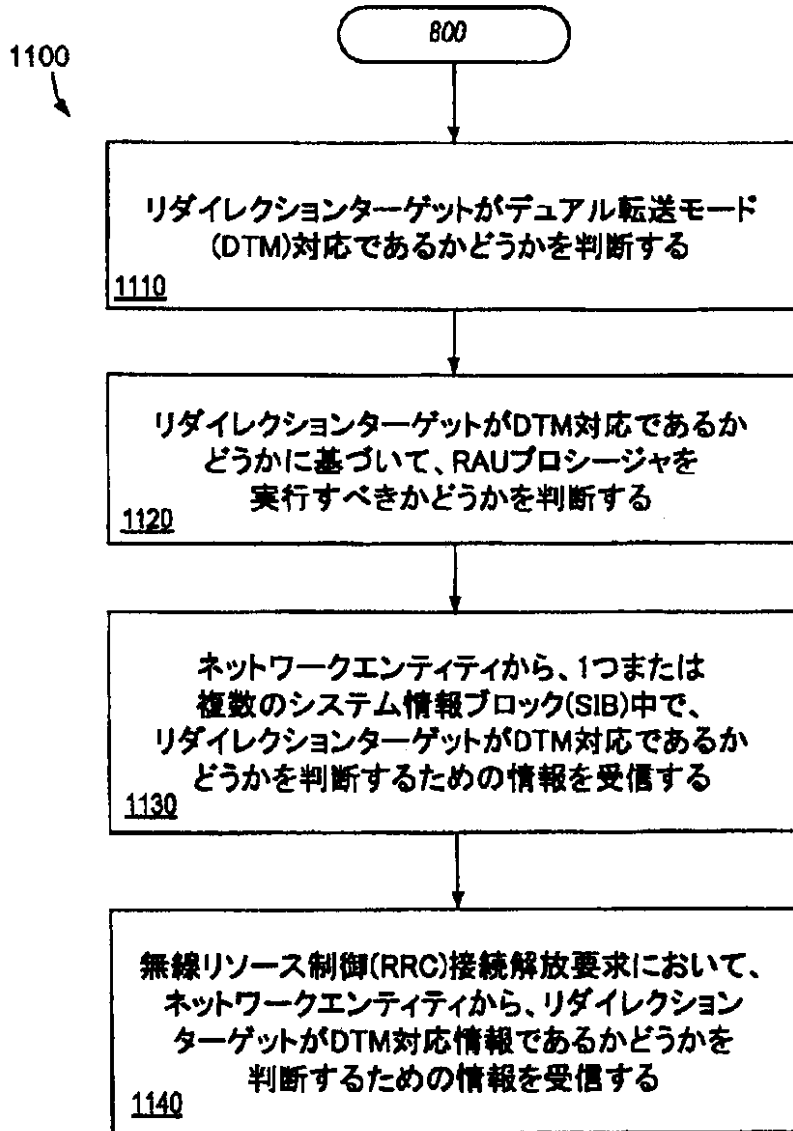


FIG. 11

【手続補正 9】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 3 C

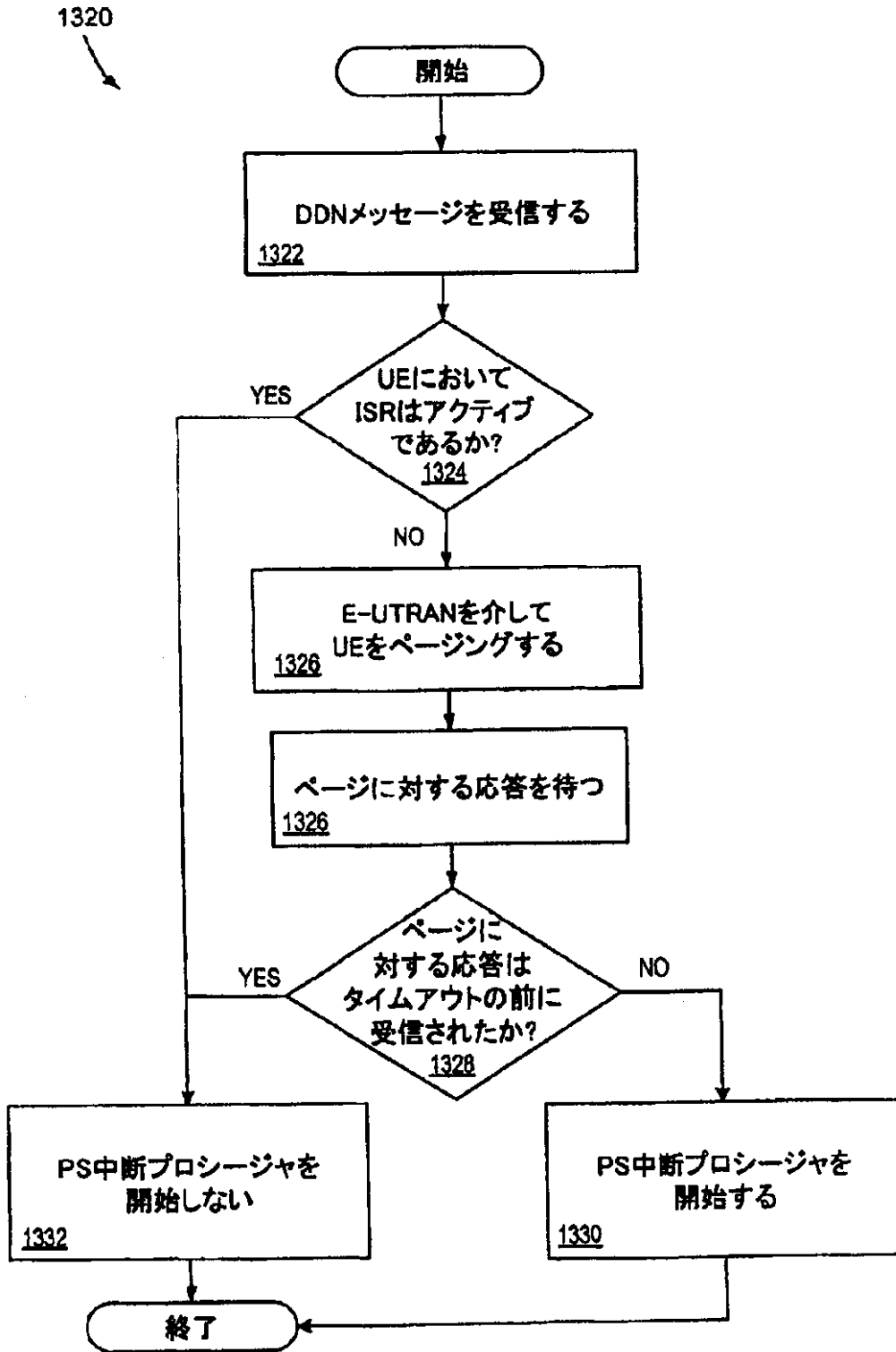
【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 13 C】

図 13C

FIG. 13C



【手続補正 10】

【補正対象書類名】 図面

【補正対象項目名】 図 18

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 図 1 8 】

図 18

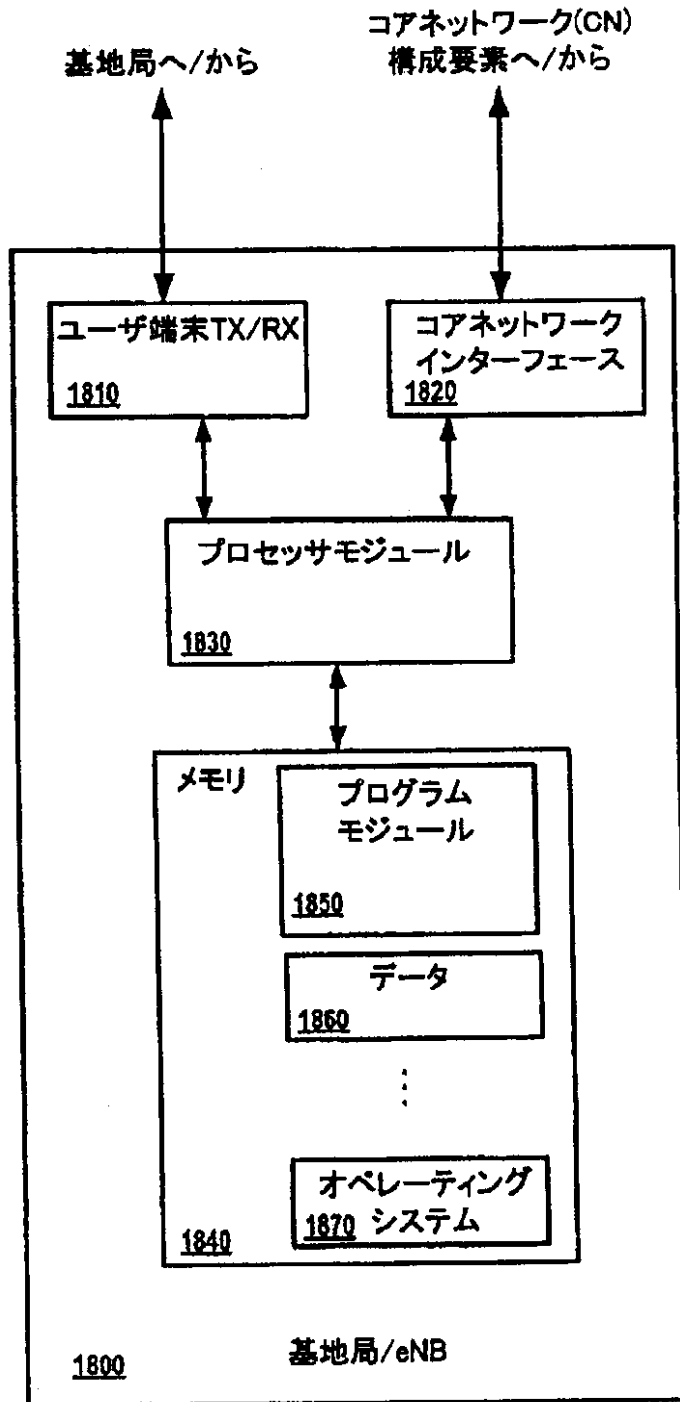


FIG. 18